

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
EU41C304		学校間連携・地域連携の実践研究(Practical Research on Collaboration of Schools and Community)					高度専門科目											
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	1	教育学研究科	後期	火3	氏名 清國祐二，熊丸真太郎，山本遼，久保隆											
							E-mail kiyokuni@oita-u.ac.jp 内線 7978											
授業の概要	本授業科目では、学校間連携・校種間連携等や地域資源を活用した地域とともにある学校づくりの理念・原理を理論的に学ぶとともに、学校現場の事例を題材とした演習に取り組むことで、現状の課題を発見し、具体的な学校経営の立案・検討する能力を養う。 また、地域の学校参加と学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）についての最新の政策動向と各種優良実践を学ぶとともに、現在の勤務校等を題材とした学校間連携・地域連携の計画立案に関する双方向的な演習に取り組むことで、実践的な力量を構築する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	学校間連携・校種間連携等に関する実践的知識について理解することができる。									○								
目標2	地域資源を活用して地域とともにある学校づくりを進めるための実践的知識について理解することができる。									○	○	○	○					
目標3	地域の学校参加と学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）に関する実践的知識について理解することができる。									○								
目標4	現在の勤務校等を題材とした学校間連携・地域連携の問題を発見することができる。							○	○	○	○	○						
目標5	勤務校の問題解決の具体的な対応策を立案できる。							○		○	○	○	○					
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1		連携とは何か：現代社会における連携の必要性を考える																
2		「地域とともにある学校」「社会に開かれた教育課程」の政策意図を検討する																
3		地域連携（１）- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）という制度																
4		地域連携（２）- 大分県における「協育」ネットワークと地域学校協働活動																
5		地域連携（３）―「協育」ネットワークの実践事例																
6		地域連携（４）―社会に開かれた教育課程と学校運営協議会																
7		地域連携（５）―保護者の学校参加・社会教育との連携																
8		地域連携（６）―学校と地域のコミュニケーションの在り方																
9		地域連携（７）―院生による所属校とその地域に関する課題と改善策																
10		学校間・校種間連携（１）―学校間・校種間連携の基本的枠組																
11		学校間・校種間連携（２）―小中一貫教育校へのフィールドワーク																
12		学校間・校種間連携（３）―小中一貫教育校へのフィールドワーク																
13		学校間・校種間連携（４）―フィールドワークの省察																
14		学校間・校種間連携（５）―幼・保・小の連携 中・高の連携																
15		学校間・校種間連携（６）―院生による所属校とその周辺の学校との連携に関する課題と改善策																
ラーニングチェックポイント	A:知識の定着・確認	○	時間外学修（宿題），ミニッツペーパー，省察のためのレポート，ディスカッション，ケーススタディ					工夫その他の	教職大学院教員が作成した「事例教材」を活用して、演習を行う。									
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造	○																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	事前課題に対するレポート作成（10h）																
	事後学修	授業で獲得した知識等を用い，見出された問題から，根っこの課題を形成する(20h)。																
教科書		教科書は指定しない。																
参考書		仲田康一（2015）『コミュニティ・スクールのポリティクス』勤草書房。 大林正史（2015）『学校運営協議会の導入による学校教育の改善過程に関する研究』大学教育出版。 浦野東洋一・勝野正章・仲田康彦編集（2007）『開かれた学校づくりと学校評価』学事出版。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	複数教員による多面的・総合的評価（受講態度，課題に取り組む姿勢，討論への参加など）	70%	○	○	○	○	○											
	最終レポート（本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など）	30%	○	○	○	○	○											
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。 また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	清國祐二(高等学校教員)、久保隆(中・義務教育学校)
実務経験を いかした教 育内容	教諭(清國)、校長(久保)としての学校現場や教育行政現場での実務経験をもとに、学校経営全般に係る指導を行う。